



海外インターン

2023年8月(3週間)/英語学科3年



オーストラリアで 3 週間の日本語教師アシスタントのインターンシップ*に参加しました!

* MyStage 手配

【プログラム】

第1週目の2日間は幼稚園で勤務し、翌週から高校で勤務しました。幼稚園では、主に園児と遊んだり、工作の補助、園内の掃除など、まさに保育士の職業体験でした。オーストラリアなので、ルーツが一樣ではなく、幼少期からそれぞれの見た目が違う環境で育つのは良いな、と思いました。

高校での仕事は主に日本語の授業での机間指導、スピーキングの練習、授業で使う教材作成、日本語の作文の添削などをしました。生徒たちからはどれだけ日本が好きで、どれだけ日本に行きたいのかがすごく伝わってきました。空き時間や移動時間などには積極的に先生方に英語で話しかけて、少しでもコミュニケーションを取ることを意識しました。

【滞在先】

ホームステイ先のファミリーは、インドネシア系オーストラリア人でした。ホストファミリーはとても優しく、駅まで迎えに来てくれたり、私

の部屋にはきれいなトイレとシャワーがついていて、とてもラッキーでした。就寝が早く、起床も早かったので、私もそのような生活リズムになって、よく睡眠時間が取れていました。

【現地での交通】

現地での公共交通機関の支払では Opal Card を使っていました。1週間の利用運賃が50ドルを超えると、それ以上の運賃は発生しないサービスでした。また、抜き打ちで駅員さんから適切にカードを利用しているかチェックもありました。

週末に突然 Technical issue という理由で電車が動いていないことがあり、運行状況が分からず、出先から家の最寄り駅まで変えるのに苦労したことが数回ありました。また、タクシーが1時間たっても来ず、結局タクシーを諦めたこともありました。このような面で比べると、日本のすごさを改めて思いました。

【感想】

私は、将来英語の教員になりたいため、オーストラリアの教育現場で有意義な時間を過ごすことができました。ある先生から「英語を勉強する上で主に2つの目的がある。1つは趣味や仕事のため。2つ目は生きるためだ」と言われました。確かに、私の英語力が伸びないのは、勉強が足りていないことと、何のために勉強をしているのかの意識が低いことに気づきました。英語の教員を目指すからには、ずば抜けた英語力を持っていないければなりません。残りの大学生活でできるだけ英語力をつけられるように頑張ろうと思います。



海外インターン

2024年8月(2週間)/英語学科3年



オーストラリアで 6 週間の保育士アシスタントのインターンシップ*に参加しました!

* MyStage 手配

【プログラム】

2歳から5歳くらいの子供たちを預かっている幼稚園でのインターンシップに参加しました。働いたのは月曜日から金曜日まで、9時から17時まででした。子供たちは人種も個性もバラバラで、全員と話そうと考えてはいたが、いざ自分から話しかけようとすると声のかけ方が分からずに、話しかけても無視をされることも最初のころは多々あった。しかし、めげずに何回か話しかけたり、一緒に遊ぶとする姿勢を見せると少しずつ心を開いてくれた気がした。この経験から、相手の特徴を捉えながら自分から話しかけること、めげないこと、相手を思いやることの大切さを改めて実感しました。

【生活面】

オーストラリアで一番感じた日本との違いは、時間に自由であることです。インターンシップ先でも出勤時間や休憩時間などの管理が紙に書くだけで、日本と違って自由だな、と感じました。

また、子供たちに対する接し方にも違いを感じました。オーストラ

リアでは子供が何か成し遂げたことに対して、日本ほど褒めずに話を聞く程度であったように感じた。いい意味で子供たちに対してドライな対応が多かったです。

ホームステイ先では、家に入る時に靴を並べたり、挨拶をするだけで「とても礼儀正しいね、さすが日本人だね」と何回か言われる経験をしました。日本人にとって普通のことでもオーストラリア人にとっては当たり前ではないのだと実際に感じる瞬間でした。

【安全面】

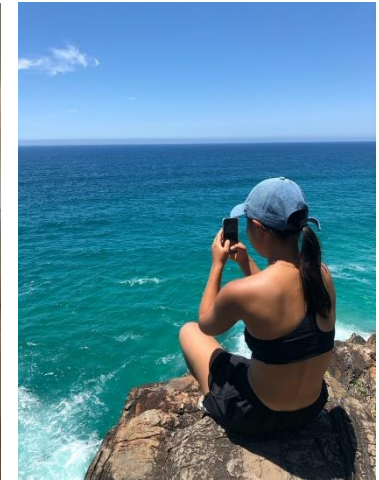
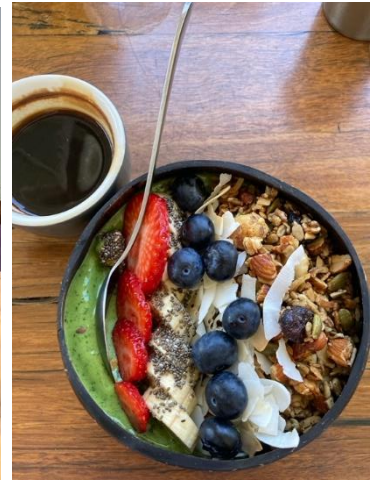
現地で生活する上で気をつけたことは、肌身離さずクレジットカードとパスポートを持ち歩いたことです。また、電車に乗る時のように人混みに紛れる時は、手荷物は必ず自分の前側に持ち、自分の目の届くところに常に持っていました。通勤用にはファスナーがついたトートバッグを選んだので、ファスナーを自分が見えるほうに持ってきて、他の人に触れられないように気をつけていました。オーストラリアは比較的治安はいい方であると思うが、このくらいの心構え(危機感を持つ)の方がいいのではないかと感じました。

【感想】

自分から進んで行動することの大切さを学びました。恥ずかしくて聞くことをためらっていたら、ずっと分からずじまいかもしれないという状況を経験して、人に尋ねること、自分から行動することの必要性を感じました。日本でも進んで行動して自分でチャンスをつかめるような人間になりたいと思いました。



サザンクロス大学 22年7月~23年2月/英語学科4年



英語や異文化に関してはもちろんのこと、生き方や自分自身についての理解が深まったように思います。

【学習面】

SCU の語学学校に 10 週間通い、その後、大学の正規授業を 3 セッション受講しました。

SCU の語学学校で特についた力は、ライティング力です。特にリファレンス(参考文献)の書き方やアカデミックなライティングを日本で学んだことがなかった私にとっては難しく感じることもありましたが、SCU の語学学校でこれらのことを学んでいたおかげで、大学でのレポートや課題で困ることがありませんでした。

大学の正規授業の雰囲気はとても良く、発言しやすい空間でした。クラスサイズも 20 人程度の少人数クラスでした。

【生活面】

私のホームステイ先には、アメリカ人のホストメイトがいました。とても親切で、よく映画を一緒に見たり、出かけたりしていました。文

化の違いから衝突をしたこともありますが、衝突後はお互いの文化を尊重しあい、さらに良い関係になりました。

また、オーストラリアでは夏にお正月を迎えるので、お正月の過ごし方は、多くの人がビーチにマットや椅子、ピクニックボックスを持ち寄って、家族で過ごしていました。花火も色んな所で打ち上げられていて、気候の違いによる過ごし方の違いも体験できました。

【オーストラリアのビーチ】

オーストラリアのビーチの綺麗さにすごく驚きました。人がいない時間に清掃がされていたり、ボランティアによる清掃活動により美しさが保たれているようで、私もボランティアとしてビーチ清掃に参加しました。

【感想】

オーストラリアでは「生きるために仕事をする」のではなく、「仕事を楽しんでいる」人が多くいるように感じました。そして、ホストマザーからクリスマスプレゼントとしていただいた本が「Girl Boss」という本でファッションブランドをオンラインで成功させた話でした。この本とオーストラリアでの生活を通して、「自分のファッションブランドを立ち上げる」という夢がさらに明確になりました。

また、オーストラリアでは「自分自身を愛している」人が多くいるように感じ、自分で自分のことを肯定的に見られるようになりました。おかげで、ストレスが少なくなったせいか、悩んでいた肌荒れもなくなりました。



海外インターン

2023年8月~2023年9月/英語学科4年



オーストラリアで 6 週間の日本語教師アシスタントのインターンシップ*に参加しました!

* MyStage 手配

【プログラム】

Cherrybrook Technology High School という中高一貫校で日本語教師アシスタントとしてインターンシップに参加しました。主な業務として、日本語が苦手な生徒のサポート、高学年のスピーキング練習、ワークシートの作成、テストの採点などがありました。日本語の授業でしたが、授業の9割が英語で行われ、生徒と話すときは100%英語なので、日本語よりも英語に触れている時間が長かったように思います。

【生活面】

3 人家族の家庭にホームステイをしました。ホストマザーが作るご飯はとても美味しく、日本料理も作ってくれたりしたので、食事で困ることはありませんでした。ホストファミリーの家から派遣先の学校までは近かったため、通勤は徒歩 15 分程度でした。

【安全面】

私が住んでいた町はとても静かで、地元の人が「ここは平和なところだ」と言うくらい穏やかな街でした。すれ違う人からも笑顔で挨拶してくれる方ばかりで、和やかな気持ちになっていました。

シティの方に行くとホームレスの人が多かったです。いくら安全でも、夜遅くないとしても、何が起こるか分からないため、1 人で遠くに行くことは避けていました。

【感想】

オーストラリアで過ごした 6 週間は、今まで生きてきた中で一番楽しくとても充実した時間でした。もちろん、楽しいことや嬉しいことだけではなく、悲しいことや悔しいこともありましたが、毎日が学びの連続ですべての経験が大切なものとなりました。

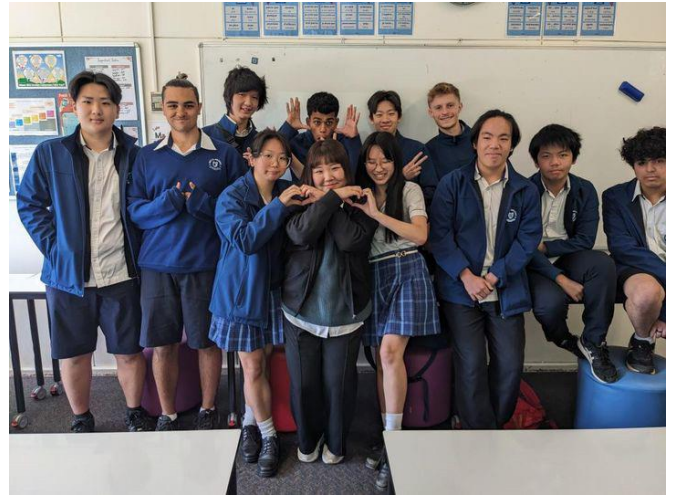
この 6 週間で学んだことが 2 つあります。1 つ目は、英語が完璧でなくても英語を話そうとする気持ちや態度が重要であるということ。そして、2 つ目は何事も行動あるのみだということです。学校だけでなく、ホームステイ先でも自分から一歩踏み出して行動することで、物事が改善するという経験をしました。書ききれないほどの多くの経験をし、たくさん失敗し、恥ずかしい思いもしましたが、その失敗があったからこそ成長することができました。

6 週間オーストラリアで生活してみて、私はやっぱり英語が好き、ということと、英語を使って海外で働きたい、ということを確認しました。このインターンシップで得た経験を最大限に活かして、将来は言語や文化を超えて国と国とを繋ぐ仕事をしたいと思います。



海外インターン

2023年8月~2023年9月/英語学科4年



オーストラリアで 6 週間の日本語教師アシスタントのインターンシップ*に参加しました!

* MyStage 手配

【プログラム】

インターンシップ先の高校はシドニーの中心街から 1 時間程離れた郊外にある Castle Hill High School という公立高校でした。オーストラリアの高校は 6 学年で構成されており、全ての学年で日本語の授業が行われていました。

日本語教師アシスタントの業務は、基本的に 1 時間目から 6 時間目までの時間割に組み込まれている日本語の授業に参加し、生徒たちの授業のサポートや授業で使用するワークシートの作成、クラスアクティビティの作成、プレゼンテーションの作成と発表を行いました。また、高学年の学生に対してはスピーキングの質問一覧表を用いて生徒たちと一対一で受け答えの練習を行ったり、ライティングの練習のためにサンプルの文章をいくつか作成しました。

【生活面】

私のホームステイ先の家はインターンシップ先の高校からバスト徒歩で 30 分ほどでした。ホストファミリーはインドネシア出身の 4

人の暖かい家族でした。ホストファミリーとは毎日 18:30 から夕食を一緒に食べて会話を楽しんだり、食後にゲームを一緒にしたり、テレビでサッカー観戦などもしました。ホストファミリーが以前日本にも住んでいたことがあったため、日本食も時々出してくれました。

【安全面】

ホームステイ先やインターンシップ先が郊外に位置していたということもあり、住宅街やスクールゾーンであったため比較的落ち着いた雰囲気地域で、安全性は高かったと感じました。

シドニーの中心街へ行くと、より人が多く賑やかで様々な人が混在していましたが、予め注意喚起されていた地域には行かず、変な行動を取らないように心がけていました。

【感想】

特に私が日本との違いを大きく感じたことは、人種に関することです。様々な文化と人種が入り組むオーストラリアだからこそ、先生方が人種に関してかなり慎重に取り扱われていることを学びました。

また、母語を第二言語として教えるということは本当に難しいということを実感しました。日本語を英語で生徒たちに教えることはかなり大変でしたが、日本語ならではの良さも学ぶことができたため、とても良い経験となりました。

今後は、まずは目の前のことに、そしてその先の将来を見据えて様々なことに取り組んでいきたいと思っています。